## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	<del>2</del> 5	置認可年月		長名			所在地						
大原簿記情: 専門学校札帳	報の	和61年12月2		良憲	(住所)	060-0806 北海道札幌市北区北							
設置者名		な   立   認   可   年   月	日 代表	長者名	(電話)	011-707-0088	所在地						
学校法人大原:	学園 昭	和54年4月1	日 中本	毎彦	(住所)	101-0065 東京都千代田区西神	申田1丁目1番3号						
分野	認定課程	(電話) 03-3292-6266				高度専門士認定	職業実践専	門課程認定年度					
商業実務	商業実務専門		会計システム2年			22(2010)年度	-	. 1/2		5(2013)年度			
学科の目的	本学科は、簿記、税	理士、公認会言	計士に関連した高度な	会計知識の	修得を通じて	、経済界を牽引する稀	有な人材を育成するこ	とを目的と	:する。				
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	教育を行う。 ■取得可能な資格					に商業実務で必要とさ		印識、パソ	コンスキルなと	ごに関する内容の			
修業年限			よ総授業時数又は総	講		演習	実習	実	!験	実技			
2	昼間 ※単位時間かに記入	]、単位いずれ	1,890 単位時間 単位	8,070	) 単位時間 単位	4,170 単位時間 単位	180 単位時間	0	単位時間単位	0 単位時間 単位			
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数	・ (生徒実員の内数)(B)	留学生割		中退率	+14		+14	+ iz			
80 人	55 人		0 人	(	) %	8 %							
	■卒業者数(C)	:	18		人								
	■就職希望者数(E)	:	10 10		<del></del>								
	■地元就職者数(F ■就職率(E/D)	F)	10 100		人 %								
	■就職者に占めるは	也元就職者の割	割合 (F/E)										
	■卒業者に占める前	就職者の割合(			%								
±1.744.66	■進学者数		<u>56</u> 7		<u>%</u> 人								
就職等の状況	■その他		,										
	公認会計士、税理:	士再受験											
	(A#n	c 年度	こ関する令和7年5月	1 日時占の棲	却)								
	(令和 ■主な就職先、業績		- 関 9 の 7 和 7 平 3 月	1日时息の順	<b>羊权</b> )								
	(令和6年度卒業生)												
			그 후 챙 때										
	一般事業会社、監	査法人・税埋:	工事務所										
	■民間の評価機関	等から第三者	<b></b> 野価:			無							
第三者による		等から第三者	<b></b> 野価:										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関	等から第三者 下について任意	<b></b> 野価:	受審年月:		評	価結果を掲載した ームページURL						
	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以	等から第三者 下について任意	<b></b> 野価:	受審年月:		評							
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以	等から第三者 下について任意	ち評(価: 記載	受審年月:		評							
学校評価 当該学科の	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.	等から第三者 下について任意 	ち評(価: 記載	受審年月:		評							
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体:	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定)	ち評(価: 記載	受審年月:		評		1, 890	単位時間				
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定)	ち評(価: 記載			評			単位時間単位時間				
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等の	普評価: 記載 /school/sapporo/	留・実技の授		評		60					
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等の	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業	留・実技の授		評		60	単位時間				
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち企業等 うち必修授	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業	習・実技の授 業時数	業時数	評水水		60 60 150	単位時間				
学校評価 当該学科の ホームページ	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.	等から第三者下について任意  ac.jp/senmon/ る算定) 数  うち企業等 うち必修授  :	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業 業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	習・実技の授 集時数 - 必修の実験 - 必修の演習(	業時数 ・実習・実技 の授業時数	評水水		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間				
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.	等から第三者下について任意  ac.jp/senmon/ る算定) 数  うち企業等 うち必修授  :	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業 業時数 うち企業等と連携した	習・実技の授 集時数 - 必修の実験 - 必修の演習(	業時数 ・実習・実技 の授業時数	評水水		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間				
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等等と連携した 実習等と実施状況	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ	等から第三者下について任意 ac.ip/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授  (うち企業等	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業 業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	習・実技の授 集時数 - 必修の実験 - 必修の演習(	業時数 ・実習・実技 の授業時数	評水水		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間				
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ 総授業時	等から第三者下について任意 ac.ip/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授 (うち企業等	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業 業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した	習・実技の授 集時数 - 必修の実験 - 必修の演習(	業時数 ・実習・実技 の授業時数	評水水		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ	等から第三者下について任意 ac.ip/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授授 (うち企業等	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授事 業時数 うち企業等と連携した 等と連携したインター	習・実技の授 集時数 一必修の実験 必修の演習 ーンシップの	業時数 ・実習・実技 の授業時数 授業時数)	評水水		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ 総授業時	等から第三者下について任意 ac.ip/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授  (うち企業等 うち企業等 うち企業等	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業 業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 等と連携したインター	習・実技の授業 ・	業時数 ・実習・実技 の授業時数 授業時数)	評水水		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ 総授業時	等から第三者下について任意 ac.ip/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授  (うち企業等 うち企業等 うち企業等	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業 業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 等と連携したインター と連携した実験・実習 と連携した演習の単位	習・実技の授業 ・	業時数 ・実習・実技 の授業時数 授業時数)	評水水		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ 総授業時	等から第三者下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授員 (うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち必修授員	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授業 業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した 等と連携したインター と連携した実験・実習 と連携した演習の単位	『・実技の授 集時数 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・ンシップの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 授業時数)	アポート		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ 総授業時	等から第三者下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授員 (うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち必修授員 (うち企業等 うち必修授員 (うち企業等 うち必修授員 (うち企業等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	各評価: 記載 /school/sapporo/ と連携した実験・実習 と連携した演習の授募 業時数 うち企業等と連携した 等と連携したインター と連携した演習の単位 と連携した演習の単位 立数	マ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・ンシップの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技	アポート		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ 総授業時	等から第三者下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授  (うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	各評価: 記載  /school/sapporo/  と連携した実験・実習 と連携した演習の授事 業時数 うち企業等と連携した 等と連携したインター と連携した実験・実習 と連携した演習の単位 立数 うち企業等と連携した	コ・実技の授業時数 必修の実験 必修の実験 コ・実技の単立数 ・必修の実験 必修の演習	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技 の対象 ・実質・実技	アポート		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ 総授業時	等から第三者下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授  (うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等	各評価: 記載  /school/sapporo/  と連携した実験・実習 と連携した演習の授事 業時数 うち企業等と連携した 等と連携したインター と連携した演習の単位 立数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	コ・実技の授業時数 必修の実験 必修の実験 コ・実技の単立数 ・必修の実験 必修の演習	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技 の対象 ・実質・実技	アポート		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間によ 総授業時  (B:単位数による	等から第三者下について任意 ac.ip/senmon/ る算定) 数 うち企業等 うち必修授! (うち企業等 うち必修授! (うち企業等 (うち企業等)	音評価: お記載  *school/sapporo/  と連携した実験・実習と連携した演習の授業 業時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した 立数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した	習・実技の授 素時数 必修の実験 必修の演習 一ンシップの ・ ・ ・ 実技の単 立数 ・ 必修の実験 ・ 必修の実験 ・ ・ の の の の の の の の の の の の の	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技 の単位数)	アポート		60 60 150 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価価関体: https://www.o-hara.  (A:単位時間による 総授業時 (B:単位数による ないよる ないまする での担当	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等等 うち必修授! (うち企業等 うち企業等等) うち企業等等(うち企業等)	各評価:  **School/sapporo/  と連携した実験・実習  **実験・実習  **表示を実験と連携した  **方ち企業等と連携した  **方ち企業等と連携した  **立数  **方ち企業等と連携した  **立数  **方ち企業等と連携した  **方ちであずる  **であずる  **	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技の授業時数) 位数 ・実質・実技位数 ・実性位数)	の授業時数	-A<-yURL	60 60 150 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関 ※有の場合、例えば以 評価価関体: https://www.o-hara.  (A:単位時間による 総授業時 (B:単位数による ないよる ないまする での担当	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) うち企業等 うち企業等 うち企作業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うち企業等 うちを企業である。	各評価:  *school/sapporo/  と連携した実験・実習 乗時数 うち企業等と連携した うち企業等と連携した をと連携した 方方の企業等と連携した をと連携した をと連携した をと連携した をと連携した をと連携した をと を を を を を を を を を を を を を を を を を を	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実質・実技 位数 ・実性位数 単位数)	アポート	-A<-yURL	60 60 150 0 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか	■民間の評価機関以解価の評価機関以解価団体: https://www.o-hara.  (A:単位時間による機関では、はな数には数にはな数にはな数にはな数にはな数にはな数にはな数になる数になる数になる数になる数にはなる数には	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等等。 うち必修授! (うち企業等等。) うち企業等等。 うち企業等等。 (うち企業等等を) うち企業等等。 うち企業等等。 うち企業等等。	音評価:  *school/sapporo/  と連携した実験・実習  *実験・変調の授業  *素時数  うち企業等と連携した  うちと連携した  な数  うち企業等と連携した  うち企業等と連携した  な数  うち企業等と連携した  を数  うち企業等と連携した  な数  うち企業等と連携した  を数  おいる。  **と連携した  なが  おいる。  **と  **と  **と  **と  **と  **と  **と  *	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技 位数 ・実性位数 単位数)	アポット の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項	ームページURL 第1号)	60 60 150 0 0	単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位時間 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 単単位 単単				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等と連携地状況 (A、Bいずれかに記入)	■民間の評価機関以 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara. (A:単位時間によ 総授業時 (B:単位数による数に でのの修上と でも当業と ② 学士	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) 数 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等を うちを企業を うちを企業を である。	各評価:  *school/sapporo/  と連携した実験・実習 業時もた演習の授業 業時 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した る者等	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技 の単位数 (専修学・	ででは、 の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	ームページURL 第1号)	60 60 150 0 0	中単単単単位時間間 単単単位 中間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間間				
学校評価 当該学科の ホームページ URL 企業等と連携した況 (A、Bいずれか に記入)	■民間の評価機関以 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara. (A:単位時間によ 総授業時 (B:単位数による数になる数になる数による数になる数になる数による数になる数になる数になる数になる数になる数による数による数による数には、というには、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うち企業等等 うちを企業等等 うちを企業等を うちを企業等を うちを企業等を うちを企業等を うちを企業等を うちを企業等を うちを企業等を うちを企業等を うちを企業等を うちを必修	各評価:  *school/sapporo/  と連携した実験・実習 要請した演習の授業 業時 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した るる者等 とを修了した後のつて、 の者のでは、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般に	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 が授業時数  位数 ・実習・実技 の単位数 (専修学・ (専修学・	ででは、 の授業時数 の受業時数 での単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	- ムページURL 第1号) 第2号) (第3号)	60 60 150 0 0	中華 単単 単単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業等をと連携した実習等と実施状況 (A、Bいずれかに記入)	■民間の評価機関以 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara. (A:単位時間によ 総授業時 (B:単位数による数 単位数による数 のの修上と学生等 3 高 修士	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) うち企業等等。 うち企業等等。 うち企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うちを企業等等。 うちを企業等等。 うちを企業等等。	各評価:  *school/sapporo/  と連携した実験・実習 要請した演習の授業 業時 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した るる者等 とを修了した後のつて、 の者のでは、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般に	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技位数 (専修学・ (専修学・ (専修学・	の授業時数 の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第3号)	60 60 150 0 0	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単				
学校評価 当該学科のホームのでは、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	■民間の評価機関以 ※有の場合、例えば以 評価団体: (A:単位時間によ 総授業時 (B:単位数による数 による数による数 による数に を検当業と ② 書 修当業と ② 書 修士 をも当業と ② 等 をも のがとと	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) うち企業等等。 うち企業等等。 うち企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うちを企業等等。 うちを企業等等。 うちを企業等等。	各評価:  *school/sapporo/  と連携した実験・実習 要請した演習の授業 業時 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した るる者等 とを修了した後のつて、 の者のでは、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般に	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技位数 (専修学・ (専修学・ (専修学・	ででは、 の授業時数 の受業時数 での単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第3号)	60 60 150 0 0 0	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 単単位 単単位 単単位 単単				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業習等のいた況への属性のに記入)	■民間の評価機関以 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara. (A:単位時間によ 総授業時 (B:単位数による数 単位数による数 のの修上と学生等 3 高 修士	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) うち企業等等。 うち企業等等。 うち企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うちを企業等等。 うちを企業等等。 うちを企業等等。	各評価:  *school/sapporo/  と連携した実験・実習 要請した演習の授業 業時 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した るる者等 とを修了した後のつて、 の者のでは、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般に	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技位数 (専修学・ (専修学・ (専修学・	の授業時数 の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第3号)	60 60 150 0 0 0	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業習等のいた況への属性のに記入)	■民間の評価機関以 ※有の場合、例えば以 評価団体: (A:単位時間によ 総授業時 (B:単位数による数 による数による数 による数に を検当業と ② 書 修当業と ② 書 修士 をも当業と ② 等 をも のがとと	等から第三者 下について任意 ac.jp/senmon/ る算定) うち企業等等。 うち企業等等。 うち企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うち企企業等等。 うちを企業等等。 うちを企業等等。 うちを企業等等。	各評価:  *school/sapporo/  と連携した実験・実習 要請した演習の授業 業時 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した るる者等 とを修了した後のつて、 の者のでは、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般には、一般に	コ・実技の授業 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実習・実技位数 (専修学・ (専修学・ (専修学・	の授業時数 の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第3号)	60 60 150 0 0 0	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 単単位 単単位 単単位 単単				
学校評価 当該学科のホームページ URL 企業習等のいた況への属性のに記入)	■民間の評価機関以 ※有の場合、例えば以 評価団体: https://www.o-hara. (A:単位時間により 総授業時 (B:単位数による数になる数になる数になる数になる数になる数になる数になる数になる数になる数にな	等から第三名 ac.jp/senmon/ る算定) うち企業等等 うちを企業等等 うちを企業等等 うちを企業を修 (うち企業等等) うちを企業等等 うちを企業等等 うちを企業等等 うちを企業等等 うちを企業等等 うちを企業を修 (うちを企業等等) できる限る者をとして、 できる限る者をとして、 できる限る者をといる。 できる。	音記載  *school/sapporo/ と連携した実験・実習の授業 うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うち企業等と連携した うちを連携した である。 を連携した をする。 を連携した を変響を とををした を変響を を変更した を変更	コ・実技の授 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の実験 ・必修の演習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業時数 ・実習・実技 の授業時数) 位数 ・実性位数 の単位数) (専修学・ (専修学・ (専修学・	の授業時数 の授業時数 の単位数 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項 校設置基準第41条第1項	- エページURL 第1号) 第2号) 第3号) 第5号)	60 60 150 0 0 0	単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単単位 単単位 単単位 単単位 単単				

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針
- ①卒業生の主な就業先である一般事業会社(経理事務職)と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②商業実務分野における学修の中心となる会計知識、計数能力、マーケティング知識、情報パソコンスキルは勿論のこと、より高度な会計知識である、財務開示、財務分析などの教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に最新の業界情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践・習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
- ①位置づけについて
- 教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議・ 策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育 課程編成にも活用していく。
- ②意思決定の過程について
- (ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
- (イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
- (ウ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

## (3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月22日現在

名 前	所 属	任期	種別
渡邉 良憲	大原簿記情報専門学校札幌校 校長		_
小倉 豪円	大原簿記情報専門学校札幌校 副校長		-
間山 あゆみ	大原簿記情報専門学校札幌校		-
若江 崇一朗	大原簿記情報専門学校札幌校		-
宮下 直樹	'c'	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	1
島元 宏忠		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	3

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
  - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
  - ②学会や学術機関等の有識者
  - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年 7月31日 17:00~17:50 第2回 令和6年11月27日 17:00~17:50

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会において教育内容全般に対して意見をいただき、「専門学校卒と大学卒に感じる相違点」および「入社 後に活躍・自己成長するために在学中から継続して取り組むべきこと」を視野に、下記の取り組みを実施した。

- 入社後の仕事への姿勢や仕事ぶり等、専門学校卒と大学卒に感じる相違点 在学中における学習目的の明確化・目標設定の強化を目的に、社会で活躍する人材・環境づくりについて助言をいただいた。入社後における専門学校卒・大学卒による相違点や差は感じられないため、将来を見据えて社会に出る練習に在学中から取り組むことが重要である。また入社後においても学び続ける姿勢を身に付けられるよう、資格取得をはじめとして学期ごとの学習目標を設定することや授業でのグループワークやグループディスカッションを通じて、周囲との接点の持ち方・関わり方を学び意見交換などができる環境整備に学校として取り組んでいく必要がある。
- 入社後に活躍・自己成長するために在学中から継続して取り組むべきこと キャリア観を養成することは大切だが、実務経験がないこと・個人によりキャリアという概念が異なることから、まずは 就職後の働く姿がイメージしやすい「モデル」を見つけることから始めることが望ましいと助言をいただいた。学生にとっ て年齢が比較的近く、在学中の学習内容や就職活動がイメージしやすい卒業生から実体験を聞き、交流できる場とし て、学内説明会や座談会が実現できると効果的である。またキャリアデザインだけではなく、職種理解が入社後のミス マッチ解消に繋がるといった期待もある。様々な視点を加えられるようキャリデザインの授業内容について充実を図る 必要がある。
- 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係
- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- ①商業実務分野における実習・演習は、企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演 習の組立を行なう。
- ②企業との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言と、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせる レベルか否かの評価を企業等の実務の視点から仰ぐ。
- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

経理事務総合の授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。

- ①実習授業内容構築へのサポート
- ②当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③授業方法に関する教員への指導
- ④学生の学修習熟状況の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

	科自致については代表的な		
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
卒業研究	2.【校内】企業等から の講師が一部の授業 のみを担当	商業実務分野の実務において、 様々な職種に幅広く求められる マーケティングの基礎知識修得 を、企業等との連携により、より実 践的に修得することを目的として 実習を行う。 実習においては、エリアマーケティ ングを中心に学習を進めていく。	イオン北海道株式会社
経理実務	5. その他※具体的な 連携方法を科目概要 欄に記述すること。	商業実務分野の実務において、経 理職および事務職に求められる、 基礎知識および事務手続きを、企 業との連携により、教員がより実 践的に修得する。講義・演習にお いては、証憑書類・帳簿・申告書等 の作成を中心に行う。	山口一雄税理士事務所 宮下直樹税理士事務所

# 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有する即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。

「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意思により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおりとなる。

①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修

②大学教授等を専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施

③学内に設置される附帯教育講座を利用しての自己啓発

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 経営に潜むリスクとその対策 連携企業等: 宮下直樹税理士事務所

期間: 令和6年8月9日(金) 対象: 会計システム学科教員

内容 ①経営に潜むリスク②正しいリスクマネジメントの重要性・リスクマネジメントのプロセス

研修名: 経理事務担当教員向け勉強会 連携企業等: 山口一雄税理士事務所

期間: 令和6年12月6日(金) 対象: 会計システム学科教員

内容 ①法人の規模による仕事の担当範囲と一般的な経理事務の流れ②会計事務所の規模による仕事の担当 範囲③最近の税制・社会保険の改正動向④領収証の確認項目、仕訳と税務調査の関係 等について学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

公益財団法人

研修名: 大学における障害学習支援~合理的配慮を中心に~ 連携企業等: 北海道私立専修学校

各種学校連合会

期間: 令和6年7月22日(月) 対象: 会計システム学科教員

内容
①障害学習支援の背景と法制度、合理的配慮の考え方②合理的配慮に関する具体例

<sup>内谷</sup> ③建設的対話の重要性について学ぶ

研修名: つながり高め合う これからの学び 連携企業等: 北海道私立専修学校

各種学校連合会

公益財団法人

期間: 令和6年12月19日(木) 対象: 会計システム学科教員

内容
①教育と広告の共通点②仕事・活動を通して考える「つながり」③専門学校生にとっての「つながり」

④専門学校にとっての「つながり」について学ぶ

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: "円満な相続"のために今できること 連携企業等: 宮下直樹税理士事務所

期間: 令和7年8月22日(金) 対象: 会計システム学科教員

内容 ①"円満な相続"のために今できること②ペポルインボイスとは③電子帳簿保存法と最新システム活用

④賃上げ促進税法の改正

研修名: 経理事務担当教員向け勉強会 連携企業等: 山口一雄税理士事務所

期間: 令和7年12月上旬 対象: 会計システム学科教員

内容
①実社会にて経理職・事務職として業務に従事する際の注意及び意識すべき項目を学ぶ

<sup>1谷</sup> ②実務に精通する方からの指導による教員の知識力向上を図る

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 変化する高校生の理解と専門学校教育の展開 連携企業等: 北海道私立専修学校 ~社会人基礎力の育成を目指して~

期間: 令和7年8月1日(金) 対象: 会計システム学科教員

内容 ①社会人基礎力とは何か②社会人基礎力に向けた課題と専門学校教育の取組③社会人基礎力育成のた

<sup>PY台</sup> めの専門学校教育の展開について学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

# (1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶治を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

2)「専修学校における学校評価ガイドライン ガイドラインの評価項目	プロリログの対応 - 学校が設定する評価項目
カイトノインの計画項目	
(1)教育理念·目標	②学校の特色はなにか。
(1)教育理心"日保	③学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
	①運営方針は定められているか。
	②事業計画は定められているか。
(2)学校運営	③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。
	④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。
	⑤意思決定システムは確立されているか。
	⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
	1 ①各学科の教育目標、育成人物像は、その学科に対応する業界の人
	材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。
	②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。
	③カリキュラムは体系的に編成されているか。
	④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされている
/a\#\+\T	か。
(3)教育活動	⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施さ
	れているか。
	⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。
	⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保し
	ているか。
	⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。
	⑨資格取得の指導体制はあるか。
	れているか。
(4)学修成果	②資格取得率の向上が図られているか。
(十)于沙风木	③退学率の低減が図られているか。
	④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
	①就職に対する体制は整備されているか。
	②学生相談に関する体制は整備されているか。
	③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。
(5)学生支援	④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。
(-7. —21	⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。
	⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。
	⑦保護者と適切に連携しているか。
	⑧卒業生への支援体制はあるか。
	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されて
/ - > 4/ -tm   -t-	いるか。
(6)教育環境	②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制
	を整備しているか。
	③防災に対する体制は整備されているか。
	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。
(7)学生の受入れ募集	②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。
(//ナエツ文八46夯未	③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。
	④学納金は妥当なものとなっているか。
	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。
(0)叶枣	(2)予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。
(8)財務	②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。

(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	_

※(10)及び(11)については任意記載。

#### (3)学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会において、「資格・要件を備えた教員の確保」を継続するために、人材の採用と育成について企業、経営者、従業員、各々の視点での取り組みや考えの共有、ノウハウの教授をいただいた。

また、「留学生に対する相談体制の整備」の強化による安心した学園生活を送るため体制作りについても、企業と学校との違いも含めて助言をいただいた。社会から専門学校に求められる知識・技能教育についての研究と継承を怠らず、より学生の満足度が高まる教育の実践と一人ひとりに寄り添った指導に努める。

# (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年9月22日現在

名 前	所 属	任期	種別
高草木 陽子		令和7年4月1日~令和8年3月 31日(1年)	企業等委員
石川 智寛	札幌国際大学短期大学部	令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	大学教授
島元 宏忠		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	企業等委員
小林 裕作	一般社団法人 北海追情報システム産業協会		企業等委員
佐藤 克彦	キーワェア北海退株式会社	01 L (2+)	企業等委員
須川 拓真		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	卒業生
天川 晶寛		令和7年4月1日~令和9年3月 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

# (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・ 広報誌等の刊行物 · その他( ))

URL: <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/</a>

公表時期: 令和7年10月6日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2) 位子科寺の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3)教職員	各学科の担当教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
	①学校行事 ②クラブ活動
(6)学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	_
(11)その他	_

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

))

URL: <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/</a>

公表時期: 令和7年10月6日

# 授業科目等の概要

	<b>(</b> ]	<b></b>	実務	<b>落専門課程 会計</b>	†システム2年制学科)											
		分類							授	業プ		場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	業時	位	講	演習	実験・実習・実技		校外			企業等との連携
1	0			簿記入門 I	株式会社における複式簿記の基本原理を学 ぶ	1 前	30	1	0			0		0		
2	0			ビジネス教養 I	企業内で多岐にわたり使用される電卓のス ピード、正確性を高める実技演習を行う	1 通	30	1		0		0		0		
3	0			一般教養 I	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字 熟語、慣用句などを学ぶ	1 前	30	1		0		0		0		
4		0			株式会社における複式簿記の基本原理、簿 記の基本原理を学ぶ	1 前	90	3	0			0		0		
5		0		3級簿記総合	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題 演習を通じて学ぶ	1 前	120	4		0		0		0		
6		0			基本的な財務報告書類の作成方法・株式会 社会計の基礎を学ぶ	1 前	90	3	0			0		0		
7		0		2級工業簿記 基礎 I	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ	1 前	60	2	0			0		0		
8		0		2級簿記総合 I	商企業および工企業の会計処理を問題演習 を通じて学び、本支店会計、連結会計、原 価計算の基礎も学ぶ	1 前	120	4		0		0		0		
9		0		1級会計学速 習基礎	会計基準および適用指針など実務に直結す る会計の基礎について短期間で学習し、問 題演習は各自で行うことを原則とする	1 前	90	3	0			0		0		
10		0		1級原価計算 速習基礎	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする	1 前	60	2	0			0		0		
11		0		1級簿記速習 総合	大企業を前提とした会計制度を学ぶ	1 前	120	4		0		0		0		

0	
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0

26	C	0		会計基準のみならず適用指針など実務に直 結する会計の基礎について学ぶ	1 前	30	1	0	Δ	0	С	
27	(	0	1級原価計算 基礎 I	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎お よび経営戦略の基本的な内容を学ぶ	1 前	30	1	0	Δ	0	С	
28	(	0	1級会計学総 合 I	会計基準のみならず適用指針など実務に直 結する会計について、より詳細に学ぶ	1 後	90	3		0	0	С	
29	(	0	1級原価計算 総合 I	原価計算基準の理論体系、多様化する製造 過程に対する会計処理、経営戦略につい て、より詳細に学ぶ	1 後	90	3		0	0	С	
30	(	0	簿記論入門I	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理 的な思考を基に、文章問題を解答する	1 前	30	1	0		0	С	
31	C	0	簿記論入門Ⅱ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的 な思考を基に、文章問題を解答する	1 後	90	3	0		0	С	
32	(	0	財務諸表論入 門 I	会計学の概要入門を学ぶ	1 前	30	1	0		0	С	
33	(	0	財務諸表論入 門 Ⅱ	会計基準の入門概要を学ぶ	1 後	90	3	0		0	С	
34	C	0	消費税法速習 入門 I	売上・仕入取引についての消費税の可否区 分の考え方を学習する	1 前	30	1	0		0	С	
35	(	0	消費税法速習 基礎 I	仕入税額控除及び国境を越えた役務の提供 を中心とした考え方を学習する	1 後	30	1	0		0	С	
36	(	0	消費税法入門 I	売上取引を中心とした消費税の可否区分の 考え方を学習する	1 前	30	1	0		0	С	
37	(	)	消費税法入門 II	控除税額を中心とした考え方を学習する	1 後	90	3	0		0	С	
38	(	)	法人税法入門	法人税法の計算体系の理解を目的とする	1 前	30	1	0		0	С	
39	(	0	法人税法入門 Ⅱ	貸倒引当金の設定方法を中心とした法人税 法の体系を学ぶ	1 後	90	3	0		0	С	

40	0	相続税法入門	相続税および贈与税の概要入門を学ぶ	1 前	30	1	0	Δ		0		0	
41	0	相続税法入門Ⅱ	相続税、贈与税の入門的な問題の理解	1 後	90	3	0			0		0	
42	0	企業体験実習	インターンシップを通じて税務等の業務内 容を理解する	1 後	30	1			0		0	0	
43	0	全経簿記上級 総合 Ⅱ	大企業を前提とした会計制度を学習し、複 雑な会計処理をより詳細に学ぶ	1 後	120	4	Δ	0		0		0	
44	0	1級会計学入 門 Ⅱ	これまでの学習を総括し、再度、基本的な 内容から確認し、基礎的な理論体系、現行 基準との整合性を確認する	1後	60	2	0			0		0	
45	0	1級原価計算 入門Ⅱ	これまでの学習を総括し、再度、基本的な 内容から確認し、工業簿記および原価計算 の関係性を学ぶ	1後	60	2	0			0		0	
46	0	簿記論基礎 I	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論 理的な思考を基に、文章問題を解答する	1 後	120	4	0			0		0	
47	0	財務諸表論基 礎 I	金融商品取引法の概要入門を学ぶ	1 後	120	4	0			0		0	
48	0		納税義務の有無の判定や、仕入税額控除の 特例の考え方を学習する	1 後	60	2	0			0		0	
49	0	消費税法基礎 I	納税義務判定の特例や、仕入税額控除の特 例などの考え方を学習する	1 後	120	4	0			0		0	
50	0	法人税法基礎 I	役員判定、役員給与を中心とした法人税法 の体系を学ぶ	1 後	120	4	0			0		0	
51	0	相続税法基礎 I	相続税、贈与税の入門的な知識を網羅し文 章問題を解答する	1 後	120	4	0			0		0	
52	0	簿記論基礎Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論 理的な思考を基に、文章問題を解答する	1 後	120	4	0			0		0	
53	0	財務諸表論基 礎 Ⅱ	会計学の入門・基礎を学ぶ	1 後	120	4	0	Δ		0		0	

54											
	0	実務演習	実務で必要となる各種税法を体系的に学 び、初歩的な知識を習得するための講義	1 後	90	3	Δ	0	0	0	
55	0	財務会計論簿記入門Ⅰ	商品売買及び棚卸資産の初歩的な問題の解 答を正確に導き出すことができる	1 前	60	2	0	Δ	0	0	
56	0	管理会計論入 門 I	管理会計の概要を知り、基礎を学ぶ	1 前	30	1	0	Δ	0	0	
57	0	財務会計論簿 記入門 II	現金預金及び金銭債権に関する初歩的な知 識を学ぶ	1 前	60	2	0	Δ	0	0	
58	0	財務会計論財表入門Ⅰ	財務会計、基礎概念を体系的に学ぶ	1 前	30	1	0		0	0	
59	0	管理会計論入 門 II	管理会計の概要を知り、原価計算制度の基 礎知識を学ぶ	1 前	60	2	0	Δ	0	0	
60	0	企業法入門 I	会社法の全体像を俯瞰し、会社の設立を中 心とした基礎的な概念を学ぶ	1 前	60	2	0		0	0	
61	0	監査論入門I	監査手続きに関して、財務諸表監査に対す る基礎的な枠組みを学ぶ	1 前	30	1	0		0	0	
62	0	財務会計論簿記入門皿	基礎知識の定着度確認を目的とする演習	1 後	30	1		0	0	0	
63	0	財務会計論簿 記入門演習 I	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答 を行う	1 後	30	1		0	0	0	
64	0		問題演習を行うことで、原価計算制度の基 礎知識を定着させることを図る	1 後	30	1	Δ	0	0	0	
65	0	短答式対策入 門総合 I	模擬試験形式による効果測定	1 後	30	1	Δ	0	0	0	
66	0	企業法入門Ⅱ	会社法の全体像を俯瞰し、株式を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1 後	30	1	0	Δ	0	0	
67	0	監査論入門Ⅱ	監査手続きに関して、監査実施論に対する 基礎的な枠組みを学ぶ	1 後	30	1	0	Δ	0	0	
62 63 64 65 66	0 0	財務会門 財務 計論簿 計論習 「	基礎的な枠組みを学ぶ 基礎知識の定着度確認を目的とする演習 数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答を行う 問題演習を行うことで、原価計算制度の基礎知識を定着させることを図る 模擬試験形式による効果測定 会社法の全体像を俯瞰し、株式を中心とした基礎的な概念を学ぶ	前 1後 1後 1後 1後 1後 1	30 30 30 30	1 1 1	Δ Δ	O O A	0 0 0	0 0	

68	0	租税法入門 I	法人税法の概要を捉え、基本的な計算を学 ぶ	· 1 後	30	1	0		0	(	5	
69	0	経営学入門 I	ファイナンス分野の基礎的な計算知識を学 ぶ	1 後	30	1	0		0	(		
70	0	租税法入門Ⅱ	所得税法・消費税法の概要を捉え、基本的 な計算を学ぶ	1 後	30	1	0		0	(	)	
71	0	管理会計論基 礎演習 I	計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、 管理会計の基礎知識を定着させることを図 る	1 後	30	1	Δ	0	0	(		
72	0		数学的な基礎知識及び論理的な思考を基 に、記述式問題の解答を行う	1 後	60	2	Δ	0	0	(	)	
73	0	企業法基礎演 習 I	簡易的な記述式問題により会社法に関する 正確な知識のインプットを図る演習	) 1 後	30	1	Δ	0	0	(	)	
74	0	監査論基礎演 習 I	監査制度に関する個別的な論点を基本的な記述式問題を通じて定着させることを図る	1 後	30	1	Δ	0	0	(	)	
75	0	経営学基礎演 習 I	簡易的な計算問題によりファイナンス分野 の知識のインプットを図る演習	· 1 後	30	1	Δ	0	0	(	)	
76	0	租税法基礎演 習 I	計算問題を中心に法人税法に関する重要論 点のインプットを図る演習	) 1 後	30	1	Δ	0	0	(	)	
77	0	財務会計論簿 記入門IV	有価証券及び有形固定資産に関する初歩的 な会計処理を学ぶ	1 後	90	3	0	4	0	(	)	
78	0	財務会計論財 表入門 Ⅱ	概念フレームワーク及び資産評価の基礎概 念を学ぶ	t 1 後	30	1	0	Δ	0	(		
79	0	管理会計論入 門皿	択一式の問題演習を通しながら、計算力の向上や原価計算基準を学ぶ	) 1 後	60	2	0	Δ	0	(	)	
80	0	企業法入門Ⅲ	会社法の全体像を俯瞰し、株式会社の機関 設計や資金調達を中心とした基礎的な概念 を学ぶ		60	2	0	Δ	0	(	)	
81	0	監査論入門皿	監査手続きに関して、監査報告論に対する 基礎的な枠組みを学ぶ	) 1 後	30	1	0	Δ	0	(	)	

				_					
ハつ 上実 道	30	1	0			0	C	)	
スマ 1	30	1		0		0	C	)	
← →	fj 60	2	0			0	C		
1 育	ត្យ 60	2	0			0	C	)	
を養 Z 道	30	1		0		0			
		1		0		0	C		
		1	0			0	C	)	
洁す 2 育	60	2	0			0	C		
— ++nl 4	60	2	0			0	C		
2 育	90	3		0		0	C	)	
思考 2	60	2	0			0	C	)	
· 2 育	60	2	0			0		)	
内な 2 育	90	3		0		0	C		
		2	0			0	C		
	と ス 及答 、 を 語 結る 結 逆短 思 的 習実 マ びす 意 を ま す す お期 考 な すす す 13 11 21 21 21 21 21 21 21 21 21 21 21 21	と ス 及答     を 語 結る 結	と ス の答     活     表 の答     話     表 の答       よ る がす     1前     60     2       活     2前     2前     30     1       ま る が     2前     30     1       お ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	Band   Band	図画   図画   図画   図画   図画   図画   図画   図画	と	と実       30       1       〇       ○       ○         スマ 1 通 30       1       〇       ○       ○         及答 1 前 60       2       〇       ○       ○         正 養 2 前 30       1       ○       ○       ○         活 す 2 前 30       1       ○       ○       ○         活 す 2 前 30       1       ○       ○       ○         活 す 2 前 2 前 2 前 30       1       ○       ○       ○         おお 2 前 2 前 30       1       ○       ○       ○         おお 2 前 30       1       ○       ○       ○         おお 2 前 30       1       ○       ○       ○         おお 2 前 30       2       ○       ○       ○         おお 2 前 30       2       ○       ○       ○         おお 2 前 30       3       ○       ○       ○         おお 3 2 前 30       3       ○       ○       ○         おお 3 2 前 30       3       ○       ○       ○         おお 3 2 前 30       3       ○       ○       ○         おお 3 2 2 2 3       ○       ○       ○       ○         おお 3 2 3       ○       ○       ○ <t< td=""><td>と実 通 30 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0</td><td>と実 通 30 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</td></t<>	と実 通 30 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	と実 通 30 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

法人税法応用 I	連結納税制度等の特殊項目の学習を進める	2 前	60	2	0			0	0		
相続税法応用 I	相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 習をし、理解を深める	2 前	60	2	0	Δ		0	0		
		2 前	60	2	0			0	0		
財務諸表論応 用Ⅱ	会社法の入門・基礎を学ぶ	2 前	60	2	0			0	0		
		2 前	120	4	0			0	0		
		2 前	120	4	0			0	0		
		2 前	60	2		0		0	0		
全経簿記上級 総合Ⅲ	大企業を前提とした会計制度を学習し、複 雑な会計処理をより詳細に学ぶ	2 前	120	4	Δ	0		0	0		
	問題演習により効率的な得点ができるよう に、問題を解答する	2 前	180	6	0			0	0		
財務諸表論総 合 I	財務諸表作成の入門概要を学ぶ	2 前	180	6	Δ	0		0	0		
		2 前	180	6		0		0	0		
法人税法総合 I	法人税法の計算体系の知識習得を目的とす る	2 前	180	6		0		0	0		
		2 前	180	6	Δ	0		0	0		
簿記論総合Ⅱ	問題演習により効率的な得点ができるよう に、問題を解答する	2 前	180	6	0			0	0		
	「日本   「日本   「日本   日本   日本   日本   日本	国をし、理解を深める	相続税法応用 相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 2 前 管記論応用 II 特殊商品売買・金融商品の基礎知識及び論 2 前 財務諸表論応 会社法の入門・基礎を学ぶ 2 前 章記論速習基 簿記の応用知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する 2 前 章記論速習本 簿記の応用知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する 2 前 電記論速習応 特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論 1 級簿記速習 業再編等についても学ぶ 2 前 2 を経簿記上級 社会会計の理をより詳細に学ぶ 2 前 2 前 2 前 1 版簿記論総合 I 問題演習により効率的な得点ができるよう 2 前 財務諸表論総 財務諸表作成の入門概要を学ぶ 2 前 財務諸表論総 財務諸表作成の入門概要を学ぶ 2 前 1 財務諸表論総合 I に、問題を解答する 2 前 1 財務諸表論総合 I に、問題を解答する 2 前 1 財務諸表論総合 I に、問題を解答する 2 前 1 財務諸表論総合 I 同題演習により効率的な得点ができるよう 2 前 1 財務諸表論と 1 財務諸表により効率的な得点ができるよう I 財務諸表論と 1 財務諸表により効率的な得点ができるよう I 財務法総合 I は続税法とび贈与税の規定、申告について 2 前 I 財務法総合 II 間題演習により効率的な得点ができるよう I 問題演習により効率的な得点ができるよう I 問題演習により効率的な得点ができるよう 2 1 関題演習により効率的な得点ができるよう 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	旧続税法応用 相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 2 前 60	相続税法応用 相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 2 前 60 2 章記論応用 I 特殊商品売買・金融商品の基礎知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する 2 前 60 2 部	旧続税法応用 相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 2 前 60 2 ○ 第記論応用 理的な思考を基に、文章問題を解答する 2 前 60 2 ○ 財務諸表論応 会社法の入門・基礎を学ぶ 2 前 60 2 ○ 申記論速習基 漢記の応用知識及び論理的な思考を基に、 2 前 60 2 ○ 申記論速習基 漢記の応用知識及び論理的な思考を基に、 2 前 120 4 ○ 章記論速習応 特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論 2 前 120 4 ○ 章記論速習応 特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論 2 前 120 4 ○ 章記論速習応 特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論 2 前 120 4 ○ 章記論連習 個別会計、結合会計を必要 2 前 60 2 章 表 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相続税法応用 相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 2 前 60 2 ○ △ □	相続税法応用 相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 2 前 60 2 ○ △ □ 中 5 計	相続税法応用   相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 2 前 60 2 ○ △ ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	相続税法応用   相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学   前 60 2 ○ △ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	相続税法応用   相続税、贈与税の基礎的な理論的思考も学 2 前 60 2 ○ △ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

110	0	財務諸表論総合Ⅱ	財務諸表作成の入門・基礎を学ぶ	2 前	180	6	Δ	0	0		)	
111	0	簿記論速習総 合Ⅲ	総合問題論点の入門知識及び論理的な思考 を基に、文章問題を解答する	2 前	120	4	0		0	(	)	
112	0	簿記論速習総 合IV	問題演習により効率的な得点ができるよう に、問題を解答する	2 前	120	4	0	Δ	0	C	)	
113	0	簿記論入門皿	簿記一巡・商品の流れの基礎知識及び論理 的な思考を基に、文章問題を解答する	2 前	30	1	0		0	C	)	
114	0	簿記論基礎皿	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論 理的な思考を基に、文章問題を解答する	2 後	120	4	0		0	C	)	
115	0	財務諸表論入 門Ⅲ	会計学の基礎を学ぶ	2 前	30	1	0		0	C	0	
116	0	財務諸表論基 礎Ⅲ	会計基準の基礎を学ぶ	2 後	120	4	0		0		0	
117	0	消費税法入門 Ⅲ	売上取引を中心とした消費税の可否区分の 処理方法を学習する	2 前	30	1	0		0		0	
118	0	消費税法基礎 Ⅱ	控除税額や納税義務の有無の判定を中心に 処理方法を学習する	2 後	120	4	0		0		0	
119	0	法人税法入門皿	法人税法の計算体系、仕組みの理解を目的 とする	2 前	30	1	0		0	(	)	
120	0	法人税法基礎Ⅱ	欠損金の設定方法を中心とした法人税法の 体系を学ぶ	2 後	120	4	0		0	(	)	
121	0	相続税法入門皿	相続税および贈与税の概要基礎を学ぶ	2 前	30	1	0		0	(	)	
122	0	相続税法基礎Ⅱ	相続税、贈与税の基礎的な問題の理解	2 後	120	4	0		0	(	)	
123	0	簿記論基礎IV	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的 な思考を基に、文章問題を解答する	2 後	30	1	0		0	(	)	

124	0	簿記論 I	リース会計から特殊商品売買の基礎知識及 び論理的な思考を基に、文章問題を解答す る	2 後	60	2	0			0	0		
125	0	財務諸表論基 礎IV	金融商品取引法の基礎を学ぶ	2 後	30	1	0			0	0		
126	0	財務諸表論I	会計基準の基礎を学ぶ	2 後	60	2	0			0	0		
127	0	消費税法基礎 Ⅲ	課税標準や簡易課税制度を中心とした処理 方法を学習する	2 後	30	1	0			0	0		
128	0	消費税法I	簡易課税制度を中心とした計算方法を学習 する	2 後	60	2	0			0	0		
129	0	法人税法基礎 Ⅲ	組織再編税制を中心とした法人税法の体系 を学ぶ	2 後	30	1	0			0	0		
130	0	法人税法 I	組織再編税制、適用除外事業者を中心とし た法人税法の体系を学ぶ	2 後	60	2	0			0	0		
131	0	相続税法基礎 Ⅲ	相続税、贈与税の基礎的な知識を網羅し文 章問題を解答する	2 後	30	1	0			0	0		
132	0	相続税法I	相続税、贈与税の基礎的な知識を網羅し文 章問題を解答する	2 後	60	2	0			0	0		
133	0		ビジネス電話対応や接客、接遇に関する ルールを学習する	2 通	60	2	0	Δ		0	0		
134	0	パソコン実習 I	Excelの資料作成、作業スピードを向上する テクニックを習得する	2 通	30	1	4		0	0	0		
135	0	パソコン実習 Ⅱ	Excelの資料作成、作業スピードを向上する テクニックを習得する	2 通	30	1			0	0	0		
136	0	パソコン実習 Ⅲ	応用的な機能を活用した文書作成や複雑な データ集計を行うスキル習得のための実習	2 通	30	1			0	0	0		
137	0	経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に 学び、知識を習得するための講義	2 通	60	2	0			0	0	(	S

138	0	実務演習 Ⅱ	実務で必要となる消費税法を体系的に学び、税務署への書類作成などの税務処理ができる知識、実務での応用的税務処理を習	2	90	3	Δ	0	0	0	
			得するための講義	IX.							
139	0	コミュニケー ション概論	グループワークの形式、役割、手法につい て学ぶ	2 前	30	1		0	0	0	
140	0	マーケティン グ概論	マーケティングの必要性と目的を学習する	2 後	60	2	0	Δ	0	0	
141	0	ビジネス教養	美しく正しい字を書けるようにする	2 前	30	1		0	0	0	
142	0	短答式対策入 門総合 Ⅱ	模擬試験形式による効果測定	2 前	30	1		0	0	0	
143	0	管理会計論応 用演習 I	応用力を身に着けるために、計算問題と記述式問題を織り交ぜた問題を解く	! 2 前	30	1	Δ	0	0	0	
144	0	財務会計論応 用演習 I	数学的な応用知識及び論理的な思考を基 に、記述式問題の解答を行う	· 2 前	60	2	Δ	0	0	0	
145	0	企業法応用演 習 I	出題の意図に沿った会社法分野の正確な記述解答を図る演習	, 2 前	30	1	Δ	0	0	0	
146	0	監査論応用演 習 I	解答の記述構成など監査制度に関する記述 レベルを引き上げを図る演習	i 2 前	30	1	Δ	0	0	0	
147	0	経営学応用演 習 I	ファイナンス分野の知識のインプット及び アウトプットカの向上を図る演習	· 2 前	30	1	Δ	0	0	0	
148	0	租税法応用演習 I	論理的な思考を用い法人税法に関する重要 論点のアウトプット力の向上を図る演習	2 前	30	1	Δ	0	0	0	
149	0	財務会計論簿 記入門V	リース会計及びその他の資産並びに社債に 関する初歩的な会計処理を学ぶ	2 前	60	2	0	Δ	 0	0	
150	0	財務会計論財 表入門Ⅲ	棚卸資産及び固定資産並びに繰延資産の会 計処理に関する基礎概念を学ぶ	· 2 前	30	1	0	Δ	0	0	
151	0	管理会計論入 門Ⅳ	問題演習を通しながら、計算力の向上とと もに原価計算基準の知識の定着を図る	2 前	60	2	0	Δ	0	0	

0	
	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
	0 0 0 0 0 0 0 0 0

0 0
0
0
0
0
0
0
0
0
0
0
0
0

0	租税法基礎Ⅱ	計算項目を理論的側面から捉える	2 後	30	1	0			0		0		
0	管理会計論基 礎演習Ⅱ		2 後	30	1		0		0		0		
0			2 後	60	2		0		0		0		
0			2 後	30	1		0		0		0		
0	監査論基礎演 習Ⅱ			30	1		0		0		0		
0	経営学基礎演 習Ⅱ	簡易的な記述式問題により組織論に関する 知識のインプットを図る演習	2 後	30	1		0		0		0		
0	租税法基礎演 習Ⅱ	計算問題を中心に所得税法に関する重要論 点のインプットを図る演習	2 後	30	1		0		0		0		
0	財務会計論簿 記基礎Ⅲ	連結会計に関する基礎的な会計処理を学ぶ	2 後	90	3	0	Δ		0		0		
0	財務会計論財 表基礎 Ⅱ	財務諸表の表示及び注記に関する基礎概念 を学ぶ	2 後	30	1	0	Δ		0		0		
0				60	2	0	Δ		0		0		
0	企業法基礎Ⅲ	会社法を中心とした、資金調達に関する知識を学ぶ	2 後	60	2	0	Δ		0		0		
0	監査論基礎Ⅲ	監査制度や監査の進め方に関して、具体的な監査計画についての基礎知識を学ぶ	2 後	30	1	0	Δ		0		0		
0	l マヹヹ ノヽ. ㅠ		2 後	30	1		0		0	0	0		0
0	キャリアデザ インⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	2 後	30	1	0	Δ		0		0		
		○       日本         日本       日本	□ 管理会計論基 情質の	○ 管理会計論基 管理会計論の典型論点を中心に理解を深める 2 後 で	○ 管理会計論基 管理会計論の典型論点を中心に理解を深め 2 後 60 財務会計論基 数学的な基礎知識及び論理的な思考を基 2 後 60 企業法基礎演 簡易的な記述式問題により商法に関する正 2 後 で変す基礎演 質Ⅱ を 2 後 2 後 8 回 監査論基礎演 協易的な記述式問題により組織論に関する 2 後 8 回 日	○ 管理会計論基 計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、2 2 後 30 1 2	○ 管理会計論基 計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、2 後 30 1 2	○ 管理会計論基 計算問題と記述式問題を繰り交ぜながら、2 後 30 1 ○ ○ 財務会計論基 版 2 60 2 ○ ○ 財務会計論基 版 2 60 2 ○ ○ ○ 企業法基礎演 簡易的な記述式問題の解答を行う 2 30 1 ○ ○ ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	□ 管理会計論基 管理会計論基 管理会計論 数学的な基礎知識及び論理的な思考を基 2 後 60 2 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	□ で理会計論基 計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、 2 (表 30 1 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	□ ○ 世理会計論基 計集問題と記述式問題を織り交ぜながら、 2 後 30 1 □ ○ □ 財務会計論基 数学的な基礎知識及び論理的な思考を基 2 60 2 □ ○ □ □ 財務会計論基 数学的な基礎知識及び論理的な思考を基 2 60 2 □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □	<ul> <li>管理会計論基 計算問題と記述式問題を織り交ぜながら、2 個 30 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</li></ul>	● で

194		0	FP基礎	日常生活に関わる様々なお金の知識を身に つける	2	120	4	0	Δ		0		0		
H															_
195	(	0	FP応用	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	. 2 前	60	2	0	Δ		0		0		
196	(	0	FP総合	「お金」に関する総合的な知識を深め、経 済社会との関係性を理解する	· 2 前	90	3		0		0		0		
197	(	0	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	2 通	30	1	Δ	0		0		0		
198	(	0	英会話入門	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに 学習する	2 通	30	1	Δ	0		0		0		0
199	(	0	卒業前特別講 座	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ	2 後	30	1	0			0		0		0
200	(	0	卒業研究・発 表	実店舗を題材にして、課題に対する改善案 を提案し発表する	2 後	60	2			0	0		0		0
201	(	0	給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解 し、特に年末調整事務に必要な知識を習得 する講義	2 後	30	1	0	Δ		0		0		
202	(	0	財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度を理解するための講義		90	3	0	4		0		0		
203	(	0	販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、 マネジメントの知識を理解する	2 通	90	3	0			0		0		
204	(	0	販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	2 後	90	3	0	Δ		0		0		
		台	計	204	科	- 目				414	単位	立 (j	単位	時間	])

	卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件:	(単位の授与) 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を 取得した学生には所定の単位を与える。 (卒業の認定) 1. 卒業の認定は修業年限以上在学して、下記に定める授業時間数以 上履修し、規定の授業科目および単位を修得し、かつ、卒業審査 に合格した者について校長が行う。 会計システム2年制学科 1,890時間(63単位) 2. 前項に規定する卒業の認定は、最終学年の終わりに行う。	1 学年の学期区分	2 期			

1	試	<b>F</b>	h-	١
(	=+1	出由	ᆓ	1

1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。

なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試 験を行うことがある。

追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった 者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に 対して実施する。

## 履修方法:

2. 各授業科目の成績評価方法については別に定める。

(学業成績)

- 1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は50点未満とする。
- 2. 授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP(Grade-Point)を与える。

1 学期の授業期間

25 调

## (留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。